

# 関西学院大学 研究成果報告

2020年 11月 23日

関西学院 院長殿

所属： 経済学部  
職名： 教授  
氏名： 中川 慎二

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国：オーストリア） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間
研究課題	外国語教育における異文化理解 ―特に、オーストリアにおける政治教育と 少数民族住民との共生について―
研究実施場所	オーストリア、グラーツ市
研究期間	2019年 9月 20日 ～ 2020年 9月 19日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

外国語教育における異文化理解がテーマである。「言語教育における異文化理解」の背景にある「政治教育」に関する基礎研究を行った。ドイツでは、ワイマール共和国以来の政治教育の伝統があるが、オーストリアではようやく1970年代に本格的に導入された。ドイツやオーストリアでは、政治教育は公教育の枠組みではすでに科目化されている。人権の町ともいわれるグラーツで、オーストリアの政治教育を、言語教育政策の観点からその基礎研究を行った。

国立シュタイアーマルク教育大学（以下教育大学）で客員研究員として研究を行った。

受け入れ教員はKlaus-Börge Boeckmann教授である。

私が所属したのは、国際ダイバーシティ研究所（Institut für Diversität und Internationales）で、所長のSusanne Linhofer教授を始め研究所スタッフと交流した。

9月10日に出国、同日グラーツに到着。12日にはアパートに入居、13日契約、16日には転入手続きをした。17日にはウィーンの日本大使館で必要な書類を申請した。9月27日には研究所の会合に参加し、スタッフと懇談した。10月3日には教育大学創立祭が行われ、その懇親会の席上でも人権教育を専門とする教員Dr. Monika Gigerl 教授、Wilma Hauser准教授とも面会した。10月8日にはグラーツ大学で開催された「歴史教育・政治教育研究会」に参加した。10月25日にはシュタイアーマルク教育大学で開催されたコメニウス協会の研究大会で「インクルーシブ政治教育プロジェクト」という題で発表した。10月26日にはグラーツ市郊外にあるエッゲンベルク城を見学した。

11月3日からは、旧ユーゴスラビアの国々をめぐる調査旅行を実施した。訪問したのはスロヴェニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナで、90年代から民族紛争の続いた地域における共生と言語事情を調査するためである。ボスニア・ヘルツェゴビナでは、サラエボからスレブレニツァまでの地域に入った。

11月3日早朝にグラーツを出発し、旧オーストリア帝国領港湾都市であったトリエステに向かった。現在はイタリア海軍の町である。トリエステから4日にはスロベニアの首都リュブリャナに向かい、城跡にある博物館でスロベニアの歴史について学んだ。5日にはクロアチアの首都ザグレブに向かい、歴史博物館で町の歴史について知見を得た。6日にはザグレブからスプリットに向かい、7日はスプリットでムスリムとキリスト教徒の葛藤や共生の歴史について郷土博物館で知見を得た。8日にはスプリットから90年代に最も戦闘の激しかったモスタルに向かい、「こども戦争博物館」（War Childhood Museum）を尋ね、創設時からのメンバーであるAmina Krvac副代表にインタビューした。そこから、サラエボに向かい、9日には戦争博物館やトンネル博物館を訪問した。また、10日にはスレブレニツァまで遠出し、途中ジェノサイド博物館を尋ね、当時の戦乱の様子を見た後、スレブレニツァのイスラム系の家庭を訪問し、インタビューした。11日にはイスタンブール経由でグラーツに戻った。11月27日には20年度夏学期にWilma Hauser 准教授と共同でワークショップを開催する打ち合わせを行った。28日には教育大学の研究ミーティングに参加した。

12月1日にはデュッセルドルフ大学の島田教授と面会し、2日にはデュッセルドルフ・オーバーカッセル地区の高齢者介護のネットワークキングに参加した。3日にはボーフム大学で講演《Koreanische Schule in Japan und der Rassismus》を行い、同日夕方には政治教育プロジェクトの一環として「アイたちの学校」上映会を同大学で開催し、参加者と議論した。12月11日には「人権の日」の催しとして「人権アクションデー」が教育大学で行われ参加した。1月5日には日本に向かい、大学図書館などで資料収集したのち、研究打ち合わせを行い、11日に東京で「ヘイトクライム研究会」に参加し、14日にはグラーツに戻った。1月28日にはフランス・ストラスブルグに向かい、29日30日とコメニウス協会の研究大会に参加し、《Project : Learn Democracy with the film. Movie Night <Korean Schools in Japan >》の題で、ドイツで実施した政治教育プロジェクトについて発表した。1月31日にはベルリン自由大学・韓国研究所でのシンポジウム「日本のナショナリズム」に参加し、“Hasskriminalität und Nationalismus in Japan”の題で講演した。

2月17日はドイツ・ザクセン州ドレスデンに、排外主義団体ペギーダの観察に出かけた。2月21日から23日にかけて、国際交流基金プラダペスト日本会館主催の研修会に参加し東欧圏の大学で日本語教育に携わる研究者と交流した。2月28日はドイツ語圏大学日本語教師会主催と日本独文学会ドイツ語教育部会共催の「JaF-DaFフォーラム」（Regensburg大学）に参加し、「ドイツ語海外研修・事前研修一危機的事例法を用いたトレーニング」の題で研究発表し交流した。そ

の後、28日午後から29日にかけては、ドイツ語圏大学日本語教師会主催研究大会（Regensburg 大学）に参加した。3月1日には「ベルリン女の会」で「アイたちの学校」上映会を開催し議論した。その後、ベルリンで戦争記念館の見学を行った。

その後は、コロナ禍のために、学会やコロキウム、シンポジウムなどが中止となり、大学への立ち入りも禁止され、グラーツがロックダウンされ、行き来が不可能になり、6月上旬までの約3か月間自宅待機状態であった。6月から徐々にロックダウンが解除され、図書館利用は開始されたが、キャンパスは原則立ち入り禁止、学校訪問や調査は実施不可能な状態のままであった。〔

6月18日には、研究所会議で研究発表を「《 Koreanische Schule in Japan 》 im Kontext der politischen Bildung」の題で行い、日本における政治教育の課題について議論した。6月22日から28日まで『アイたちの学校』オンライン上映会を行い、27日には「高賛侑監督とのトーク」セッションをオンラインで実施した。200名を超える上映会参加者があった。これもヨーロッパにおける政治教育の実践である。

学校訪問は、授業期間が終了したあと7月15日、生徒たちが不在の環境で1回実施した。また、その際にオーストリアの政治教育の教材についても懇談し、有用な示唆を得た。

その後は、教育大学の限られたスタッフとの接触から、今後の研究協力もお願いした。学院留学の期間がほぼ終了し、キャンセルの続いた日本行の航空券も、結果的に羽田行に乗ることになり、フライト直後に羽田空港でPCR検査を受け、陰性の結果が出た後は直ちにレンタカーで西宮まで自力で走行し、8月31日夜に帰宅した。コロナ禍のヨーロッパに半年間滞在するという稀な経験もして無事帰国した。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。